

＜資料＞：北陸電力への要望書とそれに対する回答

本会会員の沢田隆さんの提案をうけて、日本白鳥の会として北陸電力株式会社に要望書を出しました。それに対し、同社から回答がありました。ここに資料として、要望書と回答書を掲載します。なお、この問題については本号44ページ、沢田隆さんの「邑知潟」高圧送電線落鳥事故の経緯をお読みください。

.....

2001年12月11日

北陸電力株式会社 様

日本白鳥の会会長 藤巻裕蔵

コハクチョウの高圧線衝突死対策に関する要望

拝啓

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

最初に、簡単に日本白鳥の会の紹介をさせていただきます。本会は、日本各地でコハクチョウの観察、給餌など、保護活動を行っている人々の集まりで、1973年に設立され、以来四半世紀以上にわたる活動を続けております。現在の会員数は約150人で、会員は北は北海道から西は山口県まで、ほぼ全国で活動しております。

さて、今年12月に石川県の本会会員から、邑知潟周辺におけるコハクチョウの高圧線衝突死についての報告を受けました。

報告によりますと、1987年ころからこの地域でコハクチョウが越冬し始めるようになってから、ねぐらと採餌場の間を往復するさいに高圧線のある環境を通過するため、衝突死が発生しているということです。この事故による死亡率は、シーズン中に高圧線を通るグループの約1～2割に達するということです。私たちは、この死亡率はなかり高いものと考えています。

これらの事故に対し、北陸電力としても様々の対応策をとられていることは新聞報道で承知しておりますが、上記のような死亡率を考慮すると、これまでの対応策は必ずしも適切とは言えないとおもいます。

すでにご承知とはおもいますが、コハクチョウを含む渡り鳥については、渡り鳥保護等に関する条約・協定により、わが国だけではなく、近隣諸国と協力して保護・管理することになっております。このような観点からもより目立つ印を付けるなど高圧線衝突事故を少なくする対策をとられることを強く要望いたします。

七支電第53号

平成14年2月19日

日本白鳥の会 会長 藤巻裕蔵 様

北陸電力株式会社七尾支社電力部
部長 竹中 司

コハクチョウの保護について

拝啓、寒さの厳しい折りからますますご清栄のこととお喜び申しあげます。

先般、藤巻様よりご要望のありました白鳥保護について回答します。

当社の能登幹線は昭和56年に建設され邑知瀉周辺を通過している送電線です。羽咋市が「白鳥の里」と宣言したのが平成元年であり、それ以降、白鳥の越冬個体数が増加してきました。その後、「白鳥の落鳥が確認され、原因が送電線によるもの」と新聞報道されるに至りました。それを機に羽咋市「白鳥の里」推進協議会から、白鳥保護対策を要望され、当社としても鳥類保護連盟並びに日本白鳥の会の各先生方のご意見を元に誠意を持って対処してまいりました。

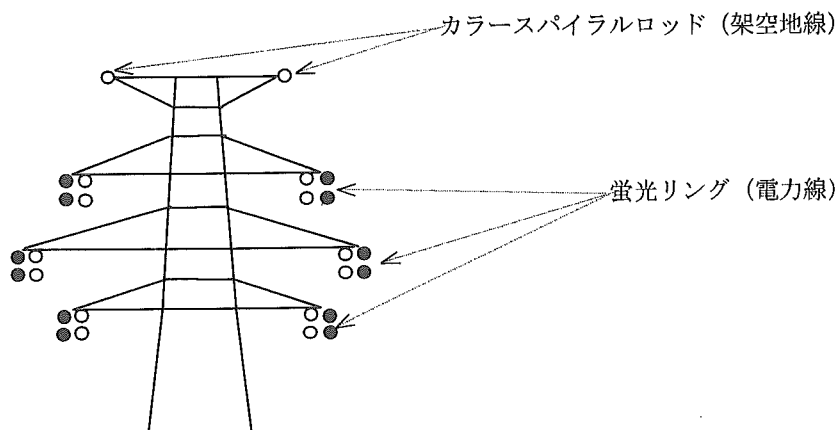
まず、対策として平成2年、3年に邑知瀉地溝帯の2.3kmの電力線、架空地線に蛍光リングを取付け、更に、平成6年には同じ区間の電力線に蛍光リングを増設しました。平成11年、12年には、同じ区間の架空地線にカラスパイラルロッドを取付けると共に、一部架空地線に標識リングを取付け、実用化の検証に取り組んでまいりました。

一方で、白鳥の動向について定期的に生態調査を行い、対策の効果を検証しています。これには、鳥類保護連盟石川県支部の皆様にも多大なご協力を頂いております。

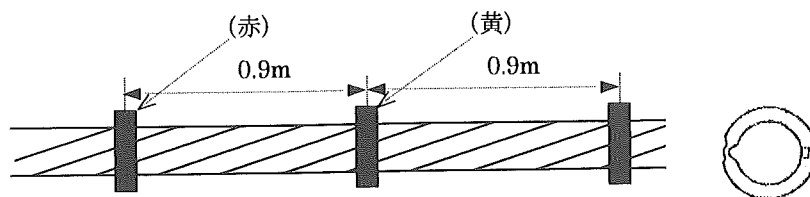
さて、当社では今後更に架空地線の視認性を高めるための対策として、先に述べた標識リングを取付けるべく検討しているところでありますが、既存の製品は耐久性に乏しく、落下した時の農耕支障、耕作者の安全を考慮し、耐久性のある改良品を試作し、実用性を検証している段階です。平成14年度中に結果をまとめ、平成15年度に対策工事を実施できるよう鋭意努力しておりますので、よろしくご願ひ申し上げます。

添付資料

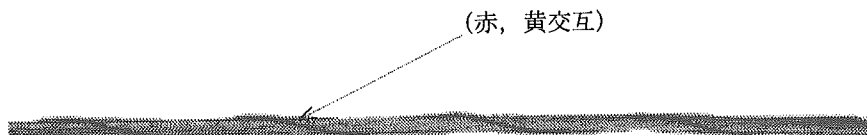
標識類の取付状況



- ・ 蛍光リング (電力線)



- ・ カラースパイラルロッド (架空地線)



- ・ 標識リング (架空地線)

